

平成29年8月10日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	人事課	氏名	北尾真吾
派遣先 団体名	西ノ島町立中央公民館		
① 研修の日時 平成29年7月26日（水）～28日（金）			
② 研修の内容 平成29年度 江府町・西ノ島町児童交歓臨海学校のスタッフ 西ノ島町と鳥取県江府町は、昭和54年に姉妹縁組し、その後、様々な交流を続けておられる。交流活動の一つとして、両町の小学5年生全員が、夏には西ノ島町において臨海学校、冬には江府町でスキーを行っており、この取組みは姉妹縁組を行った翌年の昭和55年から毎年継続しているとのことだった。 今回、スタッフの一員として参加させていただいた臨海学校は、両町の児童たちが、磯遊びや海洋スポーツ体験、また、昨年新築された西ノ島小学校の見学などを通じて、交流し、友情を育むといったものであり、2泊3日の期間中、準備や片付けを中心としたお手伝いをした。			
③ 研修の感想 西ノ島町と江府町においては、40年近くにわたって、小学5年生の時に両町で臨海学校・スキーを行うという交流を続けており、両町で生まれ育った40代くらいまでの町民の方は皆さんこれを経験しておられる。今回お世話になった西ノ島町のスタッフの方たちも、小学5年生で江府町にスキーに行った、又はお子さんがスキーに行ったということだった。 姉妹縁組をしている自治体は、県内でも、また全国的にもたくさんあると思うが、こういったすべての住民が子どもの頃から交流を行っているところは非常に珍しいと思われ、両町の絆は住民の方一人ひとりの段階においても非常に強いと感じた。そして、このような交流を通じて、相手の町に何か困るような事態が起きた場合、住民みんなで全力で助けあうという関係ができていのではないかと感じ、こういった関係を築いてこられた両町をとてもうらやましく思った。 また、海と山という違う環境で生活している子どもたちにとって、自分の住む町の素晴らしさを再発見する機会にもなったと思う。島根県においても、人口減少に歯止めをかけるべく子育て支援に力を入れているが、出生数を増やすことと並んで、いかに地元へ愛着を持ち、将来も郷土に住みたいという子どもを育てるかが非常に重要であり、今回のような体験を通じて、普段は当たり前だと思って暮らしている環境は、相手方の子どもたちにとっては、うらやましい環境であり、その子たちが歓声を上げながら楽しむ反応を見ることで、地元への誇りや愛着も強くなっていくのでは感じた。 今回、スタッフとして参加させていただき、住民レベルの交流、郷土愛、おもてなしの心、隠岐の自然の素晴らしさなど、多くの学びや気づきがあった。今回の経験はぜひ、今後の仕事や自分の人生に活かしていきたいと思う。 今回受け入れてくださった西ノ島町の皆さん、本当にありがとうございました。			
④ その他特記事項 (※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)			